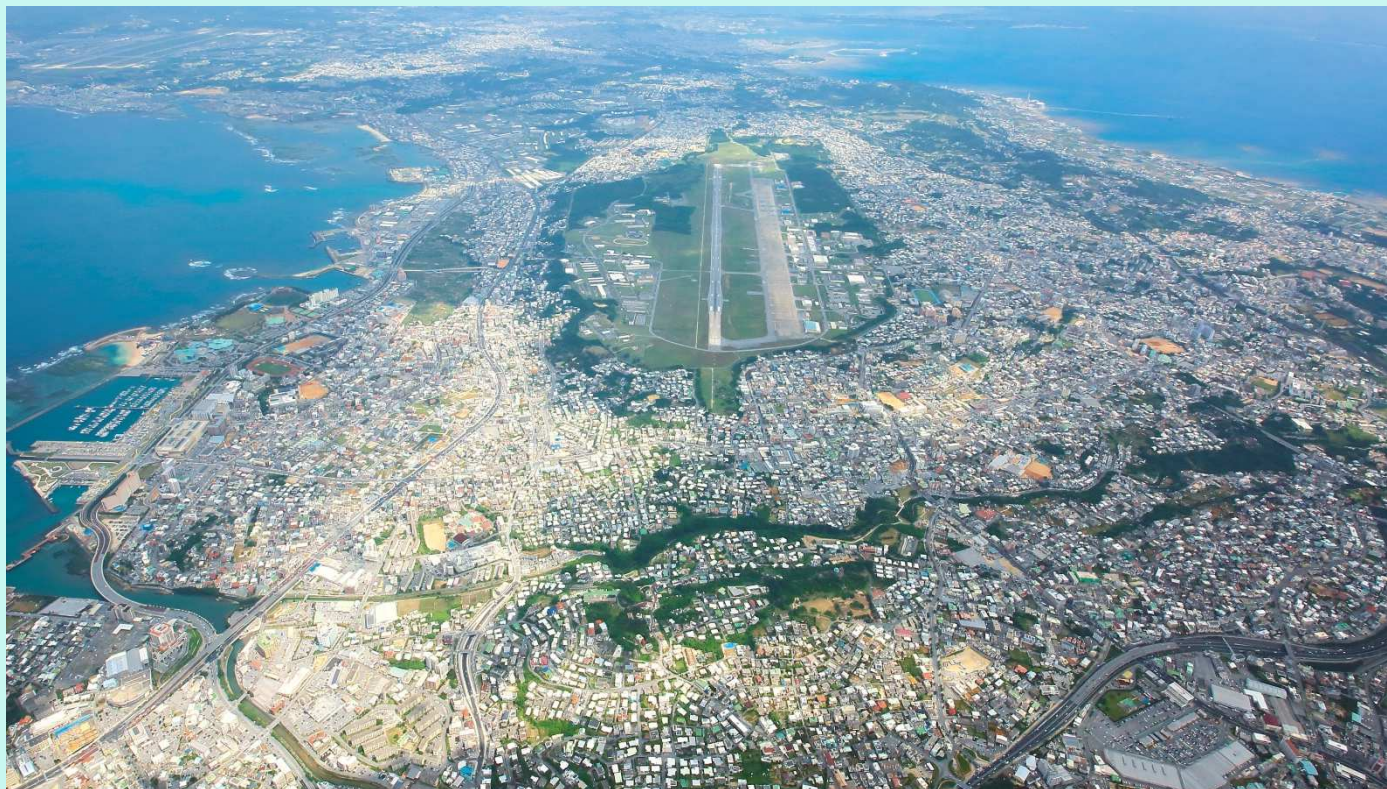


まちのど真ん中にある普天間飛行場

— 返還合意の原点は危険性の除去と基地負担の軽減 —



宜野湾市長
佐喜眞 淳

宜野湾市の市域面積の約 25 パーセントを占める普天間飛行場は、戦後 70 年もの長期間、本市の中央に存在し、航空機事故の危険性や騒音被害等、市民の生活環境に大きな負担を強いていることに加え、都市機能・交通体系・土地利用等、効率的なまちづくりを進める上の阻害要因となっており、経済活動にも影響を及ぼしております。

普天間飛行場はその危険性故に日米両政府による SACO 合意及び在日米軍再編協議で返還期日が示されたものの、返還は実現しておらず、市民の基地負担はもはや限界に達しております。

「世界一危険な基地」といわれる普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還と、その間の危険性除去及び基地負担軽減が強く望まれております。

平成 27 年度はこれまでにない新しい取り組みとして、市内の様々な立場の 9 つの団体の代表者により、騒音等基地から派生する諸問題について意見交換を行い、「普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還」、「危険性除去及び基地負担軽減の着実な実施」、「MV-22 オスプレイの他の拠点への移駐」、「夜間飛行や住宅地上空における旋回飛行の禁止など騒音被害の軽減」の 4 項目の実現を求める共同声明文を発表し、その速やかな実現を求め県内、県外の関係機関へ抗議・要請を行ったところであります。引き続き、市民と協働した取り組みを模索しながら、要請事項の早期実現を粘り強く求めてまいります。

普天間飛行場返還合意の原点は、危険性の除去及び基地負担の軽減であり、普天間飛行場の固定化は絶対にあってはなりません。普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還と、2019 年 2 月までの運用停止を含む危険性の除去及び基地負担軽減の早期実現に向け取り組んでまいります。

宜野湾市 基地政策部
2016 年 3 月

まちのど真ん中にある普天間飛行場

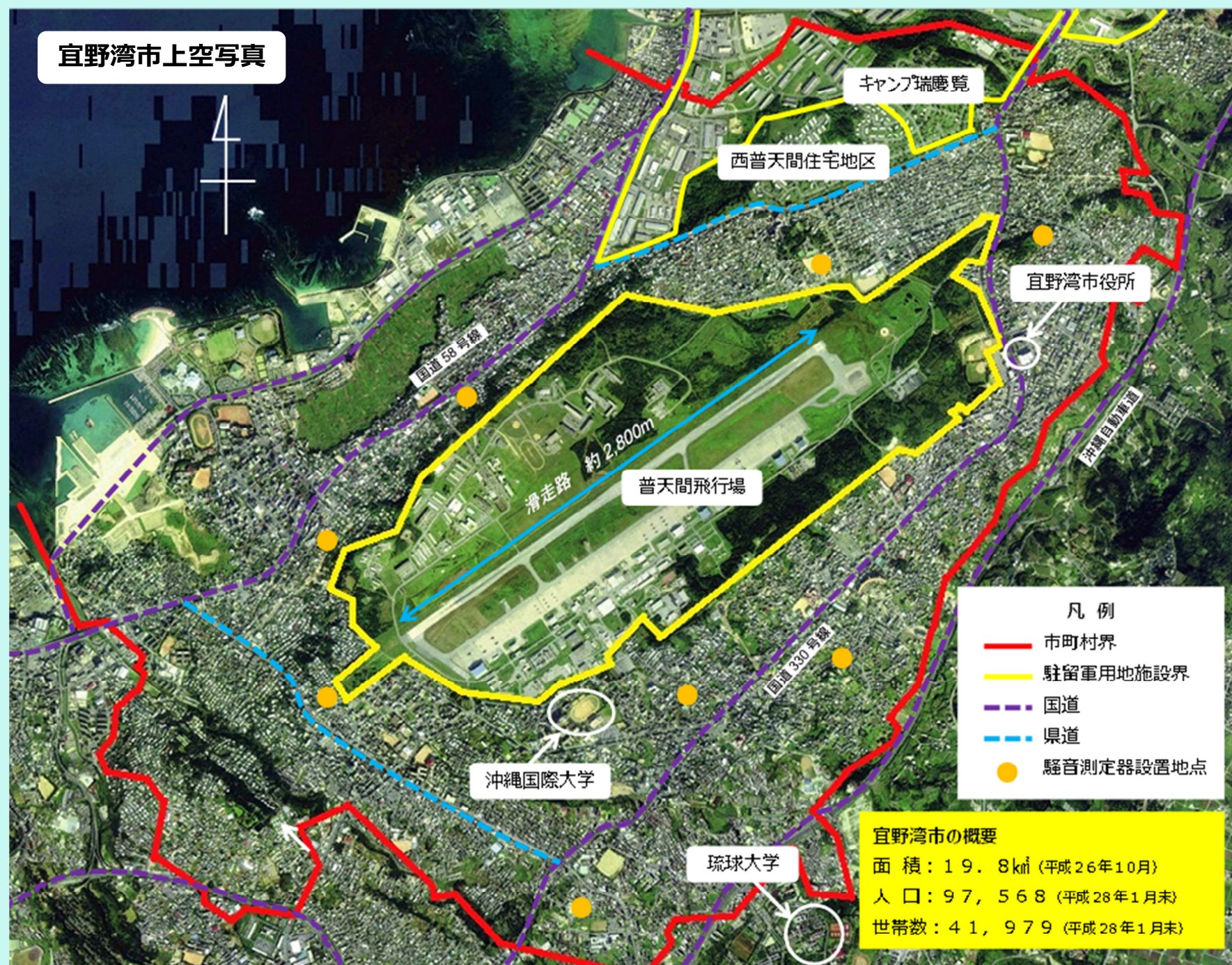
市民生活や市財政に大きな影響を及ぼしている



➤ 沖縄県宜野湾市の位置



宜野湾市上空写真



普天間飛行場の面積 (平成 26 年 3 月末現在)

480.6ha

普天間飛行場は、まちの中心部に位置し、市面積（約 19.8 km^2 ）の約 4 分の 1 を占めています。また、市の北側にあるキャンプ瑞慶覧の面積（約 1.059 km^2 ）も合わせると市面積の約 30%が米軍施設によって占められています。



宜野湾市の人口密度 (平成 28 年 1 月末現在)

約 4,928 人/ km^2

基地の面積を除くと...

約 7,002 人/ km^2

基地を除いた宜野湾市の人口密度は、東京都 (6,168 人/ km^2) や大阪府 (4,639 人/ km^2) を上回り、さらに米国の首都ワシントン DC やイギリスの首都ロンドンよりも高い人口密度となっています。

(宜野湾市の人口 97,568 人 平成 28 年 1 月末。東京都、大阪府の人口密度は H27 国勢調査より)



環境基準超過日数

168 日

(平成 26 年度 上大謝名地区)

環境省が定める環境基準値（生活環境を保全し、人の健康の保護に資する上で維持されることが望ましい基準）を超えた日数が、平成 26 年度では上大謝名地区で 168 日を記録しており、昼夜を問わず市民生活に深刻な影響を及ぼしています。



年間騒音発生回数

12,487 回 (平成 26 年度 上大謝名地区)



市の中でも特に騒音発生回数が多い上大謝名地区では、1 日あたりで 34 回(平成 26 年度)もの騒音が測定されています。基地周辺では、日常的に騒音にさらされた生活を余儀なくされており、住民にとって大きな負担となっています。

騒音最高値

120.5dB (平成 26 年 6 月 6 日 上大謝名地区)



夜間騒音

97.1dB 22 時 50 分測定 (平成 27 年 11 月 9 日上大謝名地区)

平成 26 年度に測定された騒音最高値は 120.5 dB で、これは、「飛行機のエンジン近く」に相当する騒音とされています。また、日米合意で 22 時以降の飛行は制限されているにもかかわらず、夜間騒音も度々観測されております。

騒音の大きさ	具体例
120dB	飛行機のエンジン近く
110dB	自動車のクラクション(前方2m)
100dB	電車通行時のガード下
90dB	騒々しい工場内

普天間飛行場所属機による事故

107 回 (件数は本土復帰の 1972 年から 2016 年 1 月末までを集計)



普天間飛行場所属機による事故だけでも、年間平均 2.4 回の頻度で発生しております。市街地に囲まれている普天間飛行場では、1 つの事故が大惨事になりかねず、早期の閉鎖・返還が求められております。

普天間飛行場の概要

施設面積 4.806k m² (480.6ha)

使用部隊名 普天間飛行場司令部、第 18 海兵航空管制群、第 36 海兵航空群、
第 17 海兵航空支援群

地主数 3,874 人 (平成 26 年 3 月末)

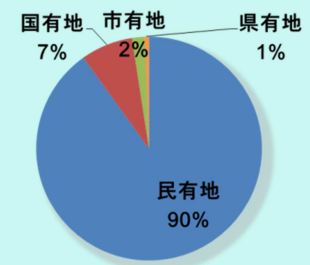
年間賃借料 約 71 億 7,600 万円 (平成 25 年度実績)

基地内軍人・軍属 約 3,200 人

日本人基地従業員 204 人 (平成 26 年 3 月末)

普天間飛行場の常駐機 48 機 (平成 26 年 10 月末現在)

↓ 所有形態別面積の割合



MV-22B	オスプレイ	24機
CH-53E	スーパースタリオン	8機
UH-1Y	ヴェノム	3機
AH-1W	スーパーコブラ	9機
UC-12W		1機
UC-35D		3機



沖縄県の米軍基地

沖縄県は日本の国土面積のわずか約 0.6% ですが、在日米軍専用施設面積の約 74% が集中しています。



「沖縄の米軍基地の現状と課題」【沖縄県】より→

S A C O合意から 20 年・・・

進めぬ普天間飛行場問題

◆これまでの経緯

1945 年 6 月頃 米軍占領と同時に接收され、米陸軍工兵隊が本土決戦に備えて滑走路を建設

1996 年 12 月 「S A C O最終報告」で「今後 5 年乃至 7 年以内に、十分な代替施設が完成し運用可能になった後、普天間飛行場を返還する」と合意

2004 年 8 月 沖縄国際大学へ米軍ヘリが墜落



2006 年 5 月 在日米軍再編協議最終報告（日米ロードマップ）において、普天間飛行場代替施設の建設は 2014 年までの完成を目標とすることを合意

2011 年 6 月 「2+2」において、日米ロードマップで合意された、普天間飛行場移設・移転の 2014 年の目標を見直し、出来る限り早く完了することを確認

2012 年 10 月 MV-22 オスプレイの配備が開始（2013 年 9 月配備完了）



2013 年 4 月 日米両政府による統合計画において、普天間飛行場の「2022 年度またはその後」の返還時期を公表

2014 年 2 月 沖縄県知事、宜野湾市長連名で、普天間飛行場の 5 年以内の運用停止、早期返還などを政府に要請

2014 年 2 月 第 1 回普天間飛行場負担軽減推進会議が開催

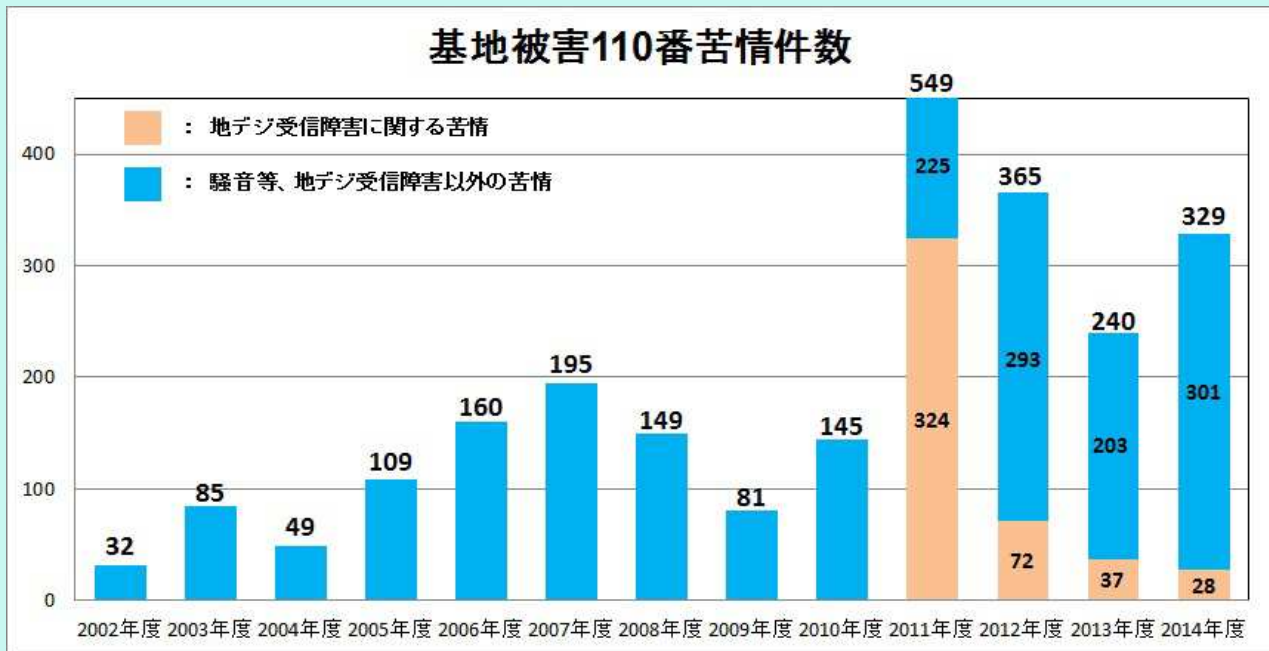


2014 年 8 月 普天間飛行場所属の K C-130 空中給油機全 15 機の岩国飛行場への移駐完了



2015 年 12 月 日米共同報道発表において、普天間飛行場東側の土地（約 4 ha）の返還に向けた作業を加速することを確認

基地被害 110 番



宜野湾市では昼夜を問わず基地から発生する騒音等の苦情について対応出来るよう、「基地被害 110 番」を設置しております。市へ寄せられた声は市長まで目を通し、翌日までに米軍と沖縄防衛局へ届け、市民生活へ配慮するよう申し入れております。また、特に騒音が激化した際などは適宜、米軍および沖縄防衛局等へ抗議・要請を行っております。

基地被害 110 番へ寄せられた声

2015 年 1 月 21 日 21 : 49 女性

今も家の上とか、その辺りで爆音が鳴り響いています。本当に気が狂いそうなくらいです。戦場では無いはずなのに、なんでこんなに戦場と変わらないんでしょうか。

2015 年 8 月 12 日 14 : 45 伊佐在住 女性

今日もヘリが低空で飛んでおりうるさい！昨日も 22 時頃までずっと飛んでいた！もう嫌がらせの様にしか思えない。私たちは人間扱いされていないのか。異常な状態だ。

2015 年 9 月 24 日 22 : 37 男性

22 時半になっているが、ひっきりなしにヘリコプターの音が聞こえますね。非常にうるさく感じます。どうにかして下さい。全然飛行の規則を守ってないと思います。

2015 年 11 月 24 日 21 : 51 真志喜在住 男性

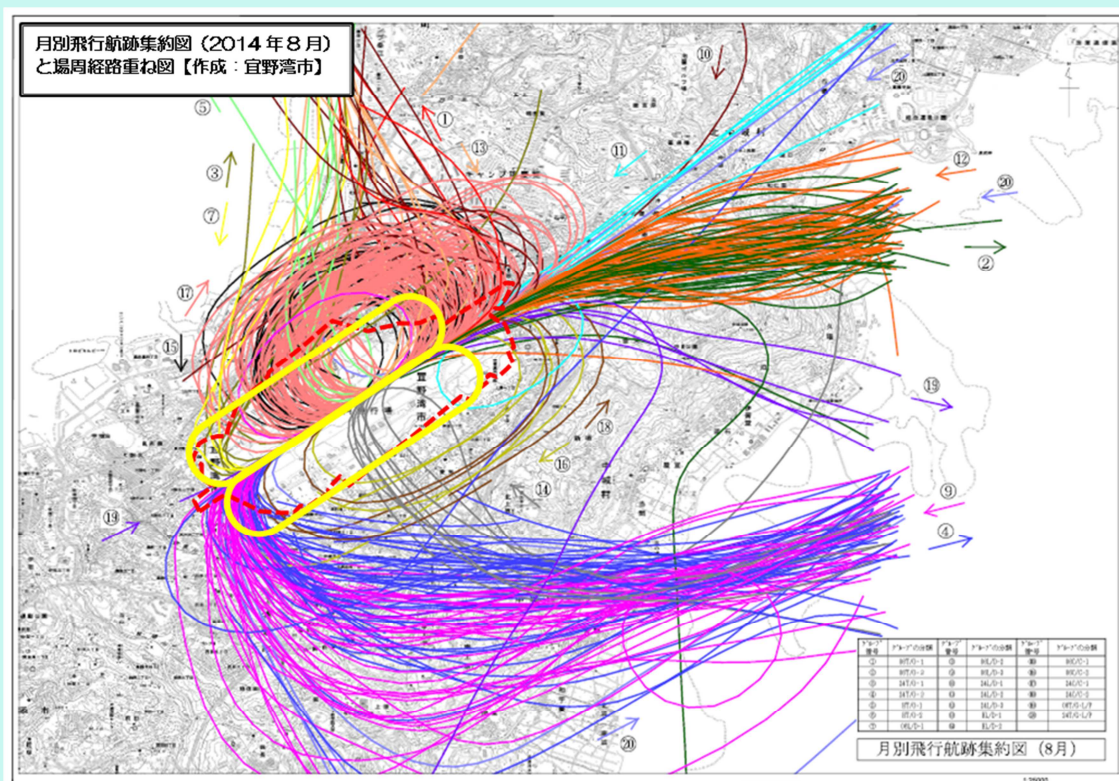
ヘリコプターの音が今日酷くて、子どもが怖がっていて寝れないので、夜間は控えるようにしてくれませんか。お願いします。

沖縄国際大学への米軍機ヘリ墜落事故



2004年8月13日（金）午後2時15分ごろ、普天間飛行場に派遣されていた米海兵隊所属CH-53D型ヘリが沖縄国際大学の本館に墜落、炎上するという重大事故が発生しました。事故機は我如古上空で尾翼部分（テールローター）を落下し、操縦不能になったまま沖縄国際大学本館ビルに墜落、激突後激しく炎上しました。ヘリに搭乗していた米軍関係者3名が負傷し、民間人への人的被害は確認されなかったものの、民家29戸、車両33台等の物的被害が確認されています。

普天間飛行場における回転翼機の飛行状況調査結果



左の図は、沖縄防衛局が発表した回転翼機の月別飛行航跡集約図の抜粋となっております。調査結果に場周経路を当てはめてみると、その多くが場周経路を逸脱していることが確認できます。

市内 9 団体による共同声明及び要請行動

2015 年 10 月、これまでにない 100 件の騒音苦情が寄せられたことなどから、市内 9 団体による宜野湾市共同声明を発表し、その後、県内・県外各関係機関へ抗議・要請を行いました。

〈参加団体〉

- ・宜野湾市
- ・宜野湾市議会
- ・教育委員会
- ・自治会長会
- ・老人クラブ連合会
- ・婦人連合会
- ・青年連合会
- ・商工会
- ・PTA 連合会



9 団体による共同記者会見



菅官房長官への要請



島尻内閣府特命担当大臣への要請



中谷防衛大臣への要請

宜野湾市共同声明では下記の 4 項目を提示しました。

- 一、普天間飛行場を絶対に固定化せず、一日も早い閉鎖・返還を実現すること。
- 一、普天間飛行場の危険性除去及び負担軽減について、目に見える形で着実に実施すること。
- 一、普天間飛行場に配備されている MV-22 オスプレイを他の拠点へ移駐すること。
- 一、普天間飛行場周辺の航空機の運用に係る騒音被害を軽減するため、「普天間飛行場における航空機騒音規制措置」を厳格に遵守するとともに、夜間飛行及び住宅地上空における旋回飛行訓練を行わないこと。

クォーターリーミーティング

宜野湾市では、市内に所在している普天間飛行場、キャンプ瑞慶覧、海軍病院の各司令官と、現地レベルで解決可能な議題を協議する場として、定期的に「クォーターリーミーティング」を開催し、お互いが抱える諸課題の解決に向け建設的に取り組んでおります。



これまでの実績として、災害時の基地内への立入りと、緊急車両の人的立入りについての協定書を締結しております。



2012年11月5日
太平洋基地司令官、北谷町、宜野湾市で
災害時立入り協定を締結



キャンプ瑞慶覧避難訓練



2015年12月22日
普天間飛行場と緊急車両立入り協定

普天間飛行場返還後の跡地利用に向けた取り組み



参考イメージ図



歴史を後世に伝える並松街道



豊かな緑やオーシャンビューがつくる沖縄振興の舞台



市民の交流の場となる新しい都市拠点

